

【お知らせ】

2022 年 4 月 5 日

国立研究開発法人科学技術振興機構  
社会技術研究開発センター

～ 現在存在する、あるいは将来起こり得る社会問題の解決に取り組む研究開発を支援 ～  
**JST -RISTEX における令和 4 年度の研究開発提案募集について**

科学技術振興機構（JST 理事長 橋本 和仁） 社会技術研究開発センター（RISTEX）では、2022 年度に開始する社会技術研究開発の新規課題の提案募集を開始しました。

社会技術研究開発は、現存する社会問題の解決や将来起こり得る社会問題への対処などを通して、新たな社会的・公共的価値の創出を目指す事業です。社会問題に関係するさまざまな関与者と研究者が協働するためのネットワークを構築し、競争的環境下で自然科学と人文・社会科学の知識を活用した研究開発を推進します。

今年度は、テーマや視点の異なる以下の 4 つのプログラムが提案を募集します。それぞれプログラムの運営責任者であるプログラム総括がアドバイザーなどの協力を得て、研究開発提案の募集、選考、並びに採択後の研究開発マネジメントを行い、プログラム目標の達成に向けて取り組みます。

■募集プログラム（各プログラムの募集概要は別紙）

- 科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム
- 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
- SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム  
（シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ）
- SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム  
（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）

公募要領、選考スケジュールなどの詳細および最新情報はホームページを参照してください。

URL [https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal\\_2022.html](https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2022.html)

<公募に関するお問い合わせ先>

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

Tel : 03-5214-0133 Fax : 03-5214-0140 E-mail : boshu@jst.go.jp

<https://www.jst.go.jp/ristex/index.html>

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

RISTEX PR 代行事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：田中(070-1639-9624)、松瀬 Mail: ristex@ssu.co.jp

## 科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラムにおける提案募集概要

本プログラムは、客観的根拠に基づく科学技術イノベーション政策の形成に寄与するため、新たな政策実装が社会にもたらす便益、効果の可視化や、政策実装に必要な専門家会議のあり方など、政策形成に必要な方法論を創出します。

## 1. 募集期間

2022 年 4 月 5 日(火)～5 月 9 日(月)正午

## 2. 募集テーマ

本プログラムでは、通常枠・共進化枠それぞれに挙げるテーマについて、社会問題の解決や社会秩序の形成維持を目的とした政策の形成や改善に将来的につながりうる具体的な成果の創出を目指す提案を求めます。通常枠では政策担当者の側に明確な wants が存在していないところに、研究者の側が自らの研究開発成果(seeds)をアピール・プロモーションし、その有用性を認知してもらうというプロセスが、また、共進化枠ではカウンターパートとなる政策当局および政策担当者に対する研究者側からの主体的かつ丹念なコミュニケーションが不可欠です。

## 【通常枠】

- ①政策形成過程における研究開発成果の伝達と受容に関する研究開発
- ②戦略的なダウンサイジングに向けた課題の抽出と対応策に関する研究開発
- ③既存技術の社会化・制度化の促進と受容に関する研究開発
- ④研究開発プログラムの設計・マネジメント・評価に関する研究開発
- ⑤新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する社会管理のあり方に関する研究開発
- ⑥危機管理下におけるリスクの最小化と経済的損失の最小化に関する統合的評価手法の開発
- ⑦行政機関等におけるデータの効果的なアーカイブ化と利活用に関する研究開発

## 【共進化枠】

- ①研究指導の質をめぐる評価手法の開発と実行可能性の検討に関する研究開発
- ②中堅大学における研究力強化に関する国内外の取組に関する成功要因の分析
- ③エビデンスに基づくスポーツ政策の推進に関する研究開発

## 3. 提案の受付方法

「府省共通研究開発管理システム (e-Rad)」により受け付けます。

URL <https://www.e-rad.go.jp/>

本プログラムの概要は以下のホームページを参照してください。

URL <https://www.jst.go.jp/ristex/funding/stipolicy/index.html>

## 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への 包括的実践研究開発プログラムにおける提案募集概要

本プログラムは、新興科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への対応と責任ある研究・イノベーションの営みの普及・定着を目指し、研究・技術開発の初期段階から包括的に ELSI に取り組む実践的協業モデルの開発を推進します。

### 1. 募集期間

2022 年 4 月 5 日(火)～6 月 8 日(水)正午

### 2. 募集テーマ

本プログラムは、新興科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI: Ethical, Legal and Social Implications/Issues）に、研究・技術開発の初期段階から予見的・包括的に取り組み、実践的協業モデルを開発する研究開発提案を募集しています。科学技術と人・社会のよりよい関係を目指し、新興科学技術の ELSI への対応と責任ある研究・イノベーションの営みを普及・定着させるために、人文・社会科学、自然科学ならびにビジネスなどの研究開発現場との連動・接続に挑戦する、意欲的な研究開発提案を求めています。

期待されるアウトプットは、(a) ELSI への具体的な対応方策の創出、(b) 共創の仕組みや方法論の開発、(c) トランスサイエンス問題の事例分析とアーカイブに基づく将来への提言、などです。新興科学技術の ELSI に取り組む課題設定として、例えば以下のような例が想定されます。

- ・すでに社会実装され始めた科学技術を対象として、顕在化しつつある ELSI へ対応  
（技術例：自動運転、メタバース、AI、デジタルファブリケーション、ゲノム編集 など）
- ・まだ社会実装されていない科学技術だが、将来起こり得る正負の影響やリスクをいち早く  
予見し調整することが求められる ELSI への対応  
（技術例：合成生物、マテリアルズ・インフォマティクス、人間拡張、気候工学 など）
- ・新興科学技術の応用や導入において、ELSI の観点から取り組むことが重要な問題  
（例：デュアルユース、ジェンダード・イノベーション、アーカイブ研究 など）

小規模チームによる基礎研究から実践的な大型チーム研究まで、多様な提案を受け付けます。また、現在推進中の他の研究開発事業やプログラムとジョイントした提案も歓迎しています。

### 3. 提案の受付方法

「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。

URL <https://www.e-rad.go.jp/>

本プログラムの概要は以下のウェブサイトを参照してください。

URL <https://www.jst.go.jp/ristex/rinca/index.html>

## SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム (シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ) における提案募集概要

本プログラムは、SDGs 達成への貢献に向け、地域が抱える具体的な社会課題に対して、研究代表者と地域で実際の課題解決にあたる協働実施者が共同で、既存の技術シーズの活用による即効性のある解決策を創出します。

### 1. 募集期間

2022 年 4 月 5 日(火)～6 月 8 日(水)正午

### 2. 募集テーマ

本プログラムでは SDGs 達成への貢献に向け、STI（科学技術イノベーション）を活用して地域における社会課題を解決し、その成果を事業計画にまとめあげて、国内外の他地域に展開可能なソリューションとして提示することを目指します。このため、地域との対話・協働を通じた「共創的」研究開発を想定し、大学等の研究者（研究代表者）と地域で社会課題に取り組む当事者の代表（協働実施者）による、共同での提案を求めます。また、現実の社会課題を解決するための取り組み自体が支援の対象となるため、社会課題の解決のために活用する技術シーズは既にあることも提案要件となります。技術シーズの研究開発そのものは支援対象とはなりません。

本プログラムでは、研究開発期間終了後の社会課題解決の事業計画立案と実施体制確立に向け、研究開発を 2 段階のフェーズに分け、提案を募集します。各フェーズでは以下の事に取り組むことを求めます。

#### 【シナリオ創出フェーズ】

社会課題の特徴の抽出と課題が生じる原因となるボトルネックの明確化、地域における可能性試験の実施、SDGs を達成する構想（シナリオ）を創出

#### 【ソリューション創出フェーズ】

地域における実証試験を通じた社会課題の解決策の有効性確認、解決策を他地域展開するための適用可能条件の提示、協働実施者を中心とした自立的継続のための事業計画策定

### 3. 提案の受付方法

「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。

URL <https://www.e-rad.go.jp/>

本プログラムの概要は以下のホームページを参照してください。

URL <https://www.jst.go.jp/ristex/funding/solve/index.html>

## SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)における提案募集概要

本プログラムは、社会的孤立・孤独のメカニズムを明らかにすると共に、社会的孤立・孤独を生まない社会像を描出し、リスクの可視化や評価手法（指標等）、予防施策及びその効果検証（PoC：概念実証）まで一体的な研究開発を推進します。

### 1. 募集期間

2022年4月5日(火)～6月8日(水)正午

### 2. 募集テーマ

本プログラムでは、人口減少・少子高齢化、経済変動、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等の新興感染症による影響など、様々な社会構造の変化を踏まえ、人文・社会科学の知見も活用し、社会のメカニズム理解にまで掘り下げた研究開発が必要なものを対象とし、研究知と現場知を融合させ、施策現場での PoC（Proof of Concept：概念実証）まで実施することを想定しています。具体的には「①社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出」、「②人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法（指標等）の開発」、「③社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み」の研究開発要素全てを含めて一体的に推進します。

特に、本プログラムでは、既存の社会的孤立・孤独に関する取り組みの知見を活用しながらも、社会の構成員全体を対象にした社会的要因の改善により、そもそも社会的孤立・孤独を生まない社会的仕組みを創るという、一次予防の観点を重視しています。

また、2020年以降の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行により、対面による直接的なコミュニケーションが困難となり、想定外の物理的な分断への対応が迅速かつ十分でないあらゆる場面で、社会的孤立・孤独の顕在化・深刻化がおり、また、これまで社会的孤立・孤独から無縁だった人や集団も社会的孤立・孤独に陥るリスクが高まっています。今後、ウィズコロナ・ポストコロナの社会における望ましいつながり・ネットワークのありかたを追求し、これを積極的に構築していくことも必要です。したがって、新型コロナウイルス感染症の社会的影響を踏まえた提案も歓迎します。

### 3. 提案の受付方法

「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。

URL <https://www.e-rad.go.jp/>

本プログラムの概要は以下のホームページを参照してください。

URL <https://www.jst.go.jp/ristex/funding/solve-koritsu/index.html>



# 社会技術研究開発事業 2022年度 提案募集一覧

社会技術研究開発センターでは、2022年度、以下の研究開発プログラムの提案募集を行っています。  
各プログラムの公募要領・提案書様式や各種日程は、必ず以下の事業Webサイトにて最新情報をご確認ください。

[https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal\\_2022.html](https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2022.html)

プログラム	科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム	科学技術の倫理的・法制的・社会的課題(ELSI)への包括的実践研究開発プログラム	SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (SOLVE for SDGs)	
			シナリオ / ソリューション	社会的孤立枠
キーワード	エビデンスに基づく政策形成 (EBPM)	新興科学技術の ELSI対応	技術シーズ活用による地域の社会課題解決	社会的孤立・孤独の予防
提案募集期間	4月5日 (火) ~ 5月9日 (月) 正午	4月5日 (火) ~ 6月8日 (水) 正午	4月5日 (火) ~ 6月8日 (水) 正午	4月5日 (火) ~ 6月8日 (水) 正午
研究開発開始	2022年10月上旬 (予定)			
プログラム目標・概要	客観的根拠に基づく科学技術イノベーション政策の形成に寄与するため、新たな政策実装が社会にもたらす便益、効果の可視化や政策実装に必要な専門家会議のあり方など、政策形成に必要な方法論を創出	新興科学技術の倫理的・法制的・社会的課題 (ELSI) への対応と責任ある研究・イノベーションの営みの普及・定着を目指す、研究・技術開発の初期段階から予見的・包括的にELSIに取り組む、実践的協業モデルを開発	SDGs 達成への貢献に向けた社会課題の解決 地域が抱える具体的な社会課題に対して、研究代表者と地域で実際の課題解決にあたる協働実施者が共同で、既存の技術シーズの活用による即効性のある解決策を創出	
研究開発期間	通常枠・共進化枠：原則3年	研究開発プロジェクト：原則1~3年 プロジェクト企画調査：6ヵ月 (単年度)	シナリオ創出フェーズ：原則2年 ソリューション創出フェーズ：原則3年	スモールスタート期間：原則1年半 本格研究開発期間：(ステージゲート評価通過の場合) 原則3年
研究開発費 (直接経費) *1課題あたり	通常枠・共進化枠：1,000万円/年 程度上限	研究開発プロジェクト：600~1,200万円/年 程度 プロジェクト企画調査：300万円/半年 程度	シナリオ創出フェーズ：400~600万円/年 程度 ソリューション創出フェーズ：1,900万円/年 程度上限	スモールスタート期間：1,200万円/年 程度上限 本格研究開発期間：1,900万円/年 程度上限
プログラム総括	山縣 然太郎 山梨大学 大学院総合研究部 医学域社会医学講座教授	唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授	関 正雄 放送大学 客員教授／ 損害保険ジャパン(株) サステナビリティ推進部 シニアアドバイザー	浦 光博 追手門大学 教授
お問合せ先	<a href="mailto:boshu-stipolicy@jst.go.jp">boshu-stipolicy@jst.go.jp</a>	<a href="mailto:boshu-elsi@jst.go.jp">boshu-elsi@jst.go.jp</a> & オンライン相談窓口	<a href="mailto:boshusolve@jst.go.jp">boshusolve@jst.go.jp</a>	<a href="mailto:boshu-koritsu@jst.go.jp">boshu-koritsu@jst.go.jp</a>
	[社会技術研究開発の全般・各プログラム共通のお問合せはこちら] 国立研究開発法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 募集担当 <a href="mailto:boshu@jst.go.jp">boshu@jst.go.jp</a>			